

第 26 回議会報告会 報告書

地 域 名	大谷地域		
年 月 日	令和 6 年 4 月 26 日 (金)	会 場 名	大谷ふれあいセンター
開始時間	午後 7 時 30 分	終了時間	午後 9 時 05 分
参 加 数	男性 8 人	女性 3 人	合計 11 人
班 長	浄慶 耕造	司 会 者	浄慶 耕造
報 告 者	全員	書 記	浄慶 耕造
班 員 名	浄慶 耕造、深澤 巧、瀬原 敬樹、田路 之雄		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	① 下水サーベイランスの予算変更は解りにくい。経過の説明をしてほしい。大きなお金のかかる事業だ。もっと議論すべきと思う。赤黄青で「警告」するというのが、どこに信号があるのか、多くの市民は理解していない。	① 下水中のコロナウイルス量を測定して感染の動向を把握する事業だ。精度と市民周知にはまだ課題がある。拡大は時期尚早というのが予算特別委員会の修正案。しかし本会議では市民の健康を守るためだとして原案可決となった。サーベイランスの結果は市役所夜間の照明、ホームページ、CATVの放送でお知らせをしている。	
	② 「少子高齢化」という言葉には不愉快である。高齢者は余剰だと言われ、出産年齢は生産年齢と置き換えられる。老人は安心・充実・重厚であり、若者は少数精鋭という前向きな考えに立てないか。	② ご意見として参考にさせていただく。	
	③ 一般質問の「地域格差是正」の質問に、市長が「自治協がそれを実現する」と答えているが、そのために自治協に運営補助金を出すということか。	③ 急速に人口が減り集落機能を保持できなくなるところに重点的に支援すべきという質問だったが、市長は自治協がその地域を支援することを期待するという答弁だった。	
	④ 高校生との意見交換会の記事で、働くところがないという意見が紹介されているが、市役所の雇用を拡大して、若者の働く場所を創ったらどうか。	④ 市役所の業務が拡大する中で、専門職を中心になかなか人が集まらない現実がある。しかし今年は 20 人の新規採用があった。人件費のバランスは考慮しなければならないが、地元枠、高校生枠、Uターン社会人枠など、地元雇用に応える制度を作ることには大事だと思う。	

意見交換会での質疑	<p>① 住民の社会活動などのマイクロバス利用ができなくなったという内容の議員の一般質問があったが、どういうことだったか。</p> <p>② 関宮まちづくり協議会で「子ども食堂」に取り組むが、市の説明では対象は旧関宮校区の子どもだけということになっている。しかし子どもは校区を超えて関宮学園の友達同士で参加したいと思うのではないだろうか。</p> <p>③ デジタル田園都市化構想に取り組んでいるが市民に届いていない。やっぶる掲示板もパスワードが届いただけでその後の市のフォローもない。このままでデジタルが進むか疑問がある。例えばだが、自治協に電子掲示板が設置されれば、区長の仕事の軽減が実感される。</p> <p>④ 自治協は条例で「地域課題の解決を目指す組織」とされているが、課題は多い。今の陣容で到底できない。条例改正を考えてほしい。</p> <p>⑤ 今の地域包括交付金では、事務局員の最低賃金も保障できない。会長の報酬も考えたいが、望むべくもない。一律ではなく、活動に応じた補助金のあり方を考えてもらいたい。</p> <p>⑥ 自治協と議員の懇談会を設けてほしい。</p>	<p>① 旧町ごとに利用してきたマイクロバスが、利用できなくなった。市は近畿陸運局から「白バス」にあたると警告を受けたという。またそれぞれのバスが、走行距離 20 万 km を越して更新の時期にある。市民の社会活動、文化活動の移動手段として利用の是非を議論しなければいけないと考える。</p> <p>② 初めての取組でいろいろ試行錯誤はあると思う。とりあえずの規定は作っているのだろうが、運営しながら変更は必要となってくる。議会も検証しながら意見を申し上げるつもりだ。</p> <p>③ デジタルとアナログの併用はコスト面から言えばできるだけ短い方がよいと考える。そのためにはスマホの習得に行政がバックアップする仕組みの構築はぜひ必要だ。孫に聞けばお年寄りも素直に学べるという話もある。</p> <p>④ 地域の住民課題は公共が対処するのは自明だ。自治協には行政と協働してできる範囲でやってほしい、と理解している。</p> <p>⑤ 5 年ごとの地域包括交付金の見直しも含めて人権・協働課がヒアリングを行っている。今年度の改正に向けて自治協から声を上げてほしい。</p> <p>⑥ 自治協に限らず住民との対話の必要は議会基本条例で謳っている。コロナ禍でできなかった反省を含めて頑張ってやりたい。</p>
-----------	---	---

その他 (提言など)	<p>① 八鹿病院は医師が減り患者が減っていると聞く。当然経営が厳しいのではないかと思うが、現状はどのようなものか。</p>	<p>① 八鹿病院は保有する預貯金と借入金の額を見る限り経営に問題はない。しかしコロナ禍を除けば赤字経営が続いている。赤字幅を減少する経営改善が必要だ。養父市の中核医療機関として市民全体で支えていくことが必要と考える。</p>
<p>備考 なし</p>		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和6年5月15日

報告者 3班 班長 浄慶 耕造